九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Verification of Reliability and Validity of the Development of Growth Motivation Scale for Nurses

新, 裕紀子

https://hdl.handle.net/2324/4474995

出版情報：Kyushu University, 2020, 博士（看護学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

（様式６－２）

氏　　名	新　裕紀子
論　文　名	Verification of Reliability and Validity of the Development of Growth Motivation Scale for Nurses （看護師の成長動機づけ尺度開発へ向けた信頼性と妥当性の検証）
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　鳩野　洋子 副　査　　九州大学　　教授　　橋口　暢子 副　査　　九州大学　　教授　　後藤　健一

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

看護師が仕事に対する意欲を持ちつつ働くことは看護の質向上に寄与する。本研究の目的は、看護師の成長に向けた動機づけの度合いを測定できる尺度（看護師の成長動機づけ尺度：Growth Motivation Scale for Nurses）を開発し、その信頼性・妥当性の検証を行うことを目的としたものである。

学位論文に先行して実施した質的研究から抽出された 30 項目からなる尺度案を含む自記式質問紙調査を全国の 18 の医療施設に勤務する臨床看護師を対象に対して実施し、項目分析、因子分析、共分散構造分析、既存尺度得点との相関分析、年代別の得点の検討、クロンバックα係数の算出を実施した。

最終的に 607 部の質問紙の回答を分析した。因子分析の結果、24 項目 4 因子が抽出され、第 1 因子【自律的組織貢献】、第 2 因子【個人のレディネスと職場環境自然の豊かさ】、第 3 因子【他者を意識した自己調整】、第 4 因子【後悔から生じる目標】と命名された。クロンバックα係数は、全体で 0.92、以下、第 1 因子から順に 0.90、0.82、0.81、0.74 であった。並存妥当性の検討における「多側面ワークモチベーション尺度」との間に有意な相関関係が認められた。また共分散構造分析の結果、想定された仮説構造モデルの適合度は許容範囲であった。年代別の分析では、45～49 歳の得点が最も高くなっていた。

以上の結果から、本尺度は一定の信頼性・妥当性を有するものと判断され、看護師の成長の動機づけの状態を測定するうえで活用が可能と考えられた。

予備調査において、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても概ね適切な回答を得た。よって本論文は予備調査委員合議の上、博士（看護学）の学位に値する論文として価値あるものと認める。

主査　鳩野　洋子
副査　橋口　暢子
副査　後藤　健一